



ROTARY CLUB OF MITO
THE JOYO BANK, LTD.
2-5-5 MINAMI-MACHI MITO IBARAKI 310-0021 JAPAN
029 (225) 4820 FAX:029 (225) 4825



雑誌委員会
副委員長 磯崎 寛也

2016年5月10日

雑誌委員会 月報 (2016年5月)

ロータリーの友 5月号読後感想

磯崎寛也

「RI会長のメッセージ (P.3)」に、ケニアの水供給の改善事業にまつわる出来事を事例に女性の意見の重要性が説かれています。

「地域のニーズとリソースをよく理解していたのは女性達でしたが、彼女達の意見を求めることはありませんでした。」

その開発プロジェクトとは一からやり直しになります。

「異文化に接して (P.14～)」は青少年交換派遣についての特集です。ロシアに派遣された諏訪間さんはロシア人が親日であることに驚いています (P.14)。カナダに派遣された田村さんは、はじめて会った人とするハグや、授業中に先生の話をもとに座って聞く風景にとまどっています (P.16)。フランスに派遣された成澤さんは、11月13日のテロに恐怖を感じ、人種差別に心を痛めました。彼女は学校で「Fuck Asia」と言われたのです (P.17)。

当クラブも交換派遣を積極的に行っているクラブです。青少年が日本の何を伝え、何を感じて帰ってくるのか、関心を持つことこそ大切なことと感じました。

日本でも南インドで差別を無くす (アンチ・スティグマ運動～スティグマとは負の印のこと) ためにメンタルヘルス支援事業を行ったり、セブ島の就職支援のためにミシンを寄贈しているクラブがあります (P.52)。海外への深い洞察によって導かれた事業は人の心を打ちます。

昨年度のロータリー財団が提供した補助金で最も大きな金額は水と衛生分野の活動であり 2000 万ドルでした。 (P.40)。水と衛生にほとんど心配なく暮らしている私たちのインフラに感謝するとともに、それが特別なことであることを意識しなくてはなりません。

20世紀、科学技術、あらゆる産業、戦争、紛争、こうしたものは男性がリードしてきました。開発や成長は男性の本能的な欲求に基づいています。そのほころびがあらゆる部分で起こっています。その事実をインターネットは、瞬時に世界に使えます。マイノリティや、異文化、女性達の考えに耳を傾けることが今こそ必要だと、世界の聡明なリーダー達は理解しています。水戸ロータリークラブにはこれから何ができるでしょうか？

最後に会長のメッセージにあるポールハリスの言葉を引用します。「ロータリーの物語は何度も何度も書き換えなくてはならない」

ソウル国際大会が5月28日～6月1日に開催されます。初日のストリートフェスティバルは歌手サイの「江南スタイル」で有名になった江南でのウエルカムフェスティバルでは K-POP、クラシック、伝統音楽など多様な音楽でお出迎え、29日はホスト組織委員会主催のコリア・シンフォニーナイト、30日にはバレエ公演があります。 (P.39)。